

● 目 次 ●

● 人権が尊重される地域コミュニティづくりのために

人権学習における参加体験型学習とは

- | | | |
|---|---------------------------------|---|
| 1 | この冊子で使われている人権学習における参加体験型学習用語の説明 | 1 |
| 2 | 人権学習における参加体験型学習の様々な手法 | 2 |
| 3 | 人権学習における参加体験型学習の利点と留意点 | 4 |
| 4 | 人権学習における参加体験型学習の企画からふりかえりまで | 4 |
| 5 | この冊子の「学習プログラム」の利用について | 6 |

● 人権意識を支える4つのキーワード 7

● 人権学習プログラム等

- | | | |
|---|---|----|
| 1 | 「考えよう、わたしの子育て」(子どもの人権) | 8 |
| | ★「共通ふりかえりシート」 | 13 |
| 2 | 「多文化共生社会をめざして」(外国籍県民の人権) | 14 |
| 3 | 「住みやすいまちづくりのために」(人権全般) | 24 |
| | ★アイスブレーキング集・Part 1 | |
| | ・「わたしのプロフィール」 | 27 |
| | ・「同じもの探し」 | 27 |
| 4 | 「バリアフリー社会をめざそう」(障害者の人権) | 30 |
| 5 | 「窓口対応における人権」(人権全般) | 34 |
| | ★アイスブレーキング集・Part 2 | |
| | ・「いいところみつけ」 | 39 |
| | ・「あわせてポン」 | 39 |
| | ・「ピン・ポン・パン」 | 40 |
| | ・「いっしょを見つけよう」 | 41 |
| | ・「みんなの1円玉」 | 41 |
| 6 | 「それぞれの立場で考えよう～家庭・地域・学校での男女共同参画～」(女性の人権) | 42 |
| 7 | 「画面の向こうに相手がいる」(インターネットによる人権侵害) | 46 |
| | ★人権教育ビデオ・DVDの活用の仕方 | 51 |
| 8 | 「学校・家庭・地域の連携」(人権全般) | 54 |
| 9 | 「セクハラ・パワハラ」(女性の人権・人権全般) | 58 |

● 単独アクティビティ集

- | | | |
|---|------------|----|
| 1 | 「車椅子体験」 | 61 |
| 2 | 「1歩前へ進め」 | 62 |
| 3 | 「みんなてうハウハ」 | 65 |

● 資料 かながわ人権施策推進指針(概要版より抜粋) 68

[表紙は、平成23年度神奈川県人権啓発ポスターを使用しています]

人権が尊重される地域コミュニティづくりのために

本書「人権学習のための参加体験型学習プログラム集」は、生涯学習・社会教育の担当者や職場、学校、地域等の方が人権にかかわる研修を行う際に活用していただくために作成しました。

近年注目されている「参加体験型学習」の手法を使い、内容・テーマは公民館やPTA、ボランティア等に携わる様々な方を対象としたものになっています。

詳細な学習プログラムと併せて、そのまま複写して使用できるようワークシートや資料を掲載して、活用しやすいようにしました。

ぜひこのプログラム集を参考に、地域の実態や対象者に合わせて工夫しながら人権学習を行っていただき、人権が尊重される地域コミュニティづくりを進めていただければ幸いです。

*** 人権学習における参加体験型学習とは ***

「気づきから築きへ」

人権学習における参加体験型学習は、一人ひとりが主体的に活動しながら学習を展開していく方法です。人権問題について気づき、参加者同士でともに考え、問題解決に向けての意欲や行動力を高めることにより、人権が尊重される社会を築くことをねらいとしています。

1 この冊子で使われている人権学習における参加体験型学習用語の説明

(1) ワークショップ

元来「職場」「作業場」「工房」等を意味します。指導・被指導の関係で学ぶのではなく、他の参加者と意見交換や共同作業を行いながら「気づき」「学び合い」、最後に自らの「ふりかえり」をするという、参加体験型学習の形態を用いた研修会等のことをいいます。

(2) ワークシート

ワークショップ・参加体験型学習で学習内容に合わせて、運営者があらかじめ準備した質問項目や作業内容等が書かれた用紙のことをいいます。この用紙に学習内容を書き入れられるようにすることで、参加者が効率的に学習を進めることができます。

(3) ファシリテーター

参加体験型学習を進行する人のことをファシリテーターといいます。「ファシリテーター」には「促進する、活性化させる」という意味があり、参加体験型学習を文字どおり「促進する、活性化させる」のがファシリテーターの役割です。具体的には、話し合いの素材になるものを用意して、話し合いの整理をする議長役だけでなく、参加者一人ひとりが深く考えられるように話題の転換や質問などを織り交ぜていき、参加者とともに学習していく立場の人をいいます。

(4) アイスブレイキング

参加者の緊張をときほぐし、自由に話せる安心感をつくり出す活動のことをいいます。声を出さないコミュニケーションによるグループづくりや、自己紹介ゲーム、コミュニケーションの活性化をねらう伝言ゲーム等があり、導入の段階で有効です。

(5) アクティビティ

学習プログラムを構成する重要なもので、学習のねらいを達成するための主となる学習活動のことをいいます。

(6) ふりかえり

参加者が参加体験型学習をとおして気づき、考えたことを確認する活動のことをいいます。他の参加者と発表し合うことで、学習が独りよがりのものでなく、より深い思考へとつながります。

(7) 学習プログラム

学習全体としてのねらいを達成するために、アイスブレイキング、アクティビティ、ふりかえりなどを効果的に組み合わせつつくり出す学習全体の流れのことをいいます。

2 人権学習における参加体験型学習の様々な手法

～組み合わせる展開することができます～

(1) ビデオフォーラム

「ビデオ視聴」と「話し合い」を組み合わせた学習方法です。生活背景の違う参加者に共通の話題を提供することで、一人ひとりのもつ生活課題・問題の絞り込みができ、深みのある話し合いができます。参加者の心情を大きく揺さぶり、強い情緒的な刺激を与え、学習への動機づけや学習の展開を方向づけることができます。

(2) ロールプレイ

学習の内容に応じた場面を設定し、その中で参加者が話し手、聞き手、観察者等の役割を相互に分担し合い、演技をすることで、学習目的に迫る方法です。現実の問題を模擬的に演じることにより、自分の心を感情のままに自由に表現することができ、人間関係の改善などに迫ることができます。

(3) ブレインストーミング

自由な発想で討議し、創造的に問題解決をめざす方法です。特定の目標の実現のために、アイデアを出し合ったり、様々な考え方を整理したりしながら、グループとしての行動方針を設定することができます。

(4) 疑似体験 (シミュレーション)

模擬体験・疑似体験のことです。障害がある人の状況を体験するアイマスク・車椅子体験等が代表的ですが、仮想の国家間での貿易ゲームや、仮の権力関係を設定して多数者と少数者の関係について体験するなど、様々な疑似体験をとおして新しい発見と相手の立場に立った考え方に迫ることができます。

(5) フィールドワーク

実際に自らが現地に赴き、見たり、聞いたり、ふれたり、調べたりする活動方法です。地域の実情や歴史的経緯等にふれる調査で、見過ごしてしまっているようなテーマに着目して地域の課題を発見していくことができます。

(6) ランキング

様々なテーマについて 10 個前後の権利や具体的な項目等をカードに記入し、参加者が自分にとって重要と考える順序にダイヤモンド型等にランキング (順位づけ) していく方法です。その根拠等を整理し、その結果について参加者相互で意見交換・討議をすることで主題に迫ることができます。

(7) カードを用いた分類法

参加者の意見をカードに書き、そのカード全部を見ながら分類や討議をします。参加者のすべての意見を集約することができ、またカードの匿名性から、自由な発想や本音の意見を引き出すことができます。

3 人権学習における参加体験型学習の利点と留意点

参加体験型学習の利点と留意点を理解した上で、目的や対象者に合わせて展開しましょう。

【利点】

- (1) 様々な手法を活用して参加者が主体的に学習することにより、人権に対する理解を深めることができます。
- (2) ゲーム性のあるアイスブレイキングで、安心して参加できる雰囲気をつくり出せます。また、日常生活にあり得そうなことを問題提起するようなアクティビティで、人権を身近な問題としてとらえることができます。
- (3) 参加者同士が話し合うことで、様々な考えがあることが認識でき、人権課題の解決に向けて、意欲や行動力を高めることができます。

【留意点】

- (1) ファシリテーターは、ねらいを達成できるよう、「予想される参加者からの回答や質問」に対する事前の準備が必要です。
- (2) 体験による発見が独りよがりの理解にならないよう、話し合いの時間が必要です。また、学習内容がその場限りにならないよう、学んだことをふりかえる時間を設ける必要もあります。

4 人権学習における参加体験型学習の企画からふりかえりまで

(1) 学習のねらいを設定する

学習プログラムを通じて参加者とともに作り出したいねらいを設定することが必要です。どのような知識・理解や態度・技能を身につけていくのか明確にします。そして、学習の最初に参加者とねらいを共有してから学習プログラムを進めましょう。

(2) 参加者の様子や人数等を知る

参加者がどのような人なのか知っておくことが大切です。年齢、性別、参加体験型学習の経験がどの程度あるのかなどを考慮するとよいでしょう。また、参加者の人数により、ペアやグループをどのように編成するかかわってきます。参加者が多い場合は、学習の深まりを考えて適宜ファシリテーター以外にも学習プログラムの運営を支援してくれる人を配置するとよいでしょう。

(3) 学習プログラムを考える

アイスブレイキング、アクティビティ、ふりかえりをどのように行うのか、学習のねらいと参加者の経験などに合わせて考えます。参加者同士で交流ができ、十分な意見交換ができるような時間配分やふりかえりてどのようなことを共有するのか考えることが大切です。

本冊子の学習プログラムはアイスブレイキングやアクティビティを入れかえても使用できるようになっています。

ワークシートはコピーしてそのまま使えるようにしてありますが、アクティビティで扱われる登場人物や場面を、参加者にあわせて適切な設定にかえて利用してもよいでしょう。

(4) 会場の用意と必要なものを準備する

学習プログラムに合わせて会場の配置を工夫しましょう。動きのあるプログラムの場合は十分な広さを確保できるようにしましょう。必要なものはアクティビティによってかわりますが、あらかじめ活動するグループより多めに準備しておきましょう。

(5) 実施する

学習の流れ	留意点
<p>1 はじめに</p>	<p>一人ひとりが安心して学習できるように次の内容を確認してから学習を進めましょう。</p> <div style="border: 2px solid #00aaff; padding: 10px;"> <p>[参加体験型学習の約束]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分と違う意見であっても、お互いの意見を尊重して意見交換を行いましょう。 ②学習の場で出てきた個人的な経験や考えについては、この場限りとして、安心して話してください。同様に、学習の場で話された個人的な内容は、他の場では話さないよう心の中にしまっておいてください。 ③様々な事情で内容によって意見を出したくないという人がいた場合は、参加しないという選択肢もあるので尊重してください。 </div>
<p>2 実施中に</p> <p>①過程を大切に</p> <p>②答えは1つではない</p>	<p>～ファシリテーターとして心がけたいこと～</p> <p>結論を出すことが目的ではありません。話し合った過程を大切に、様々な考え方があることを参加者同士が理解し合えることが大切です。</p> <p>「これが絶対正しい」という答えがあるわけではありません。様々な考え方を認めましょう。また、考え方を1つにまとめることが目的ではありません。</p>

学習の流れ	留意点
<p>③ 誤った考え方に対しては正しい情報を</p> <p>④ ふだんの生活の中に生かす</p>	<p>偏見や差別を助長する発言が肯定的になりそうなときは、正しい情報を提供して、人権課題の解決に結びつくように理解を深めることが必要です。</p> <p>ふだんの生活の中で、学習で体験したような事柄に出会ったとき、この学習で学んだことを生かすことが大切です。参加者が理解したことを友だちや仲間を広め実践していくことで豊かな社会が実現できるのだということを確認しましょう。</p>
<p>3 運営者のふりかえり</p>	<p>参加者のふりかえりを参考に、当初のねらいに迫ることができたかを考察し、次の学習プログラムづくりに生かしましょう。</p>

5 この冊子の「学習プログラム」の利用について

「学習の流れ」の欄は、参加者の活動について示しています。

「時間」の欄は、導入・展開・まとめとして3つに分け、およその時間配分を示しています。

□の中には、各活動の後のまとめとして、ファシリテーターにおさえてほしいことを示しています。

「●参考」は、参考となるホームページや文献が掲載されています。なお、ホームページについては作成時のもので、変更されている場合があります。

1 「考えよう、わたしの子育て」(子どもの人権)

実施する場
①対象者 PTA等保護者
②所要時間 90分

活動のねらい(ポイント)

①ものごとには様々な見方があり、一つのものの見方にとらわれることなく、幅広い視野でものごとを見ていくことの大切さを見つける。
②子どもの人権尊重や自尊感の育成を意図して子育てを行っているかをふりかえり、自分の子育てを見直さすきっかけとする。

準備するもの
付箋、ワークシート1・2、資料、共通ふりかえりシート、名刺大の紙

時間	学習の流れ(活動・内容)	留意事項	備考(資料等)
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の確認(5分) ・研修会のねらい ・目標 ・参加体験型学習における約束 ●アイスブレイキング(15分) 「名刺交換」 <p>①表に自分の呼ばれたい愛称を書き、裏に自分の所属、氏名を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。⇒P.3の2-(5) ・名刺大の紙を各自5枚配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺大の紙
展開 60分	<ul style="list-style-type: none"> ●アクティビティ1(30分) 「大丈夫？わたしの子育て」 ①提示したもの以外で、自分が子育てで大切にしているポイント <p style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">・子どもを一面的にとらえずに見方をかえ、子どものよいところを見つけることは、大人の変革改革につながり、それによって子どもたちが変わったり、家庭が変わったりすることにつながる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前の人と同じ内容でも構わないが、なるべく言い回しを変えるようしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1⇒P.10
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ●まとめ(5分) ・ファシリテーターの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童の権利に関する条約」と「子どもの権利条約」は同一のものである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料⇒P.12

＜参考資料「参加体験型人権学習ワークシート集」神奈川県教育委員会(平成15年発行)＞

学習を深めるために 人権啓発DVD「0000」の視聴を入れて実施することも考えられる。

●参考
子育てに関する情報が掲載されているホームページ URL: <http://0000.jp>

タイトルの後の()内は、取り扱う主な人権課題を示しています。

「留意事項」の欄は、ファシリテーターの活動について示しています。

「備考」の欄は、準備するものなどを示しています。

＜参考資料＞は、学習プログラム作成に参考とした資料を示しています。

「学習を深めるために」は、プログラムに加えられるような他の活動等について示しています。

人権意識を支える4つのキーワード

1 自尊感情（セルフエスティーム）

自尊感情とは、「いろいろ欠点もあるけれど、自分が好き。」という気持ちのことです。自分のことを大切に思うことが、他の人のことを大切に作る気持ちにつながります。

2 想像力・共感的理解力

想像力・共感的理解力とは、他の人の立場に立って、その人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような力です。想像力・共感的理解力が、相手に対する思いやりにつながります。

3 相手を理解するためのコミュニケーション能力

コミュニケーション能力とは、相手への思いやりの気持ちを忘れずに、自分の気持ちや意見をはっきりと相手に伝えるとともに、相手の気持ちや意見をきちんと受けとめる力です。コミュニケーションには、話す聞くだけではなく、態度や身振り、顔の表情なども含まれます。

また、コミュニケーションには、「ちゃんと聞いていますよ。なるほど、そう感じているのですね。」という受容的な姿勢も大切です。

4 非攻撃的自己主張（アサーティブネス）

非攻撃的自己主張とは、相手の気持ちを傷つけずに自分の思いを相手に伝える方法です。問題が起きたとき、相手を攻撃するような口調を使うと、攻撃された方は反発したり、黙ってしまったりします。それよりも、「そんなことを言われると私は悲しい。」など自分の内面の気持ちを素直に伝えてみましょう。相手にとってもその気持ちを受け入れやすくなり、問題解決に向けて話を進めやすくなります。